



千葉県学指令第2618号

野田市柳沢83番地

学校法人 三星学園

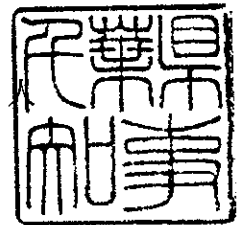
理事長 渡辺 竜太

令和8年3月29日付けで申請のあった学校法人三星学園の寄附行為変更については、私立学校法(昭和24年法律第270号)第108条の規定により認可する。

令和8年3月30日

千葉県知事

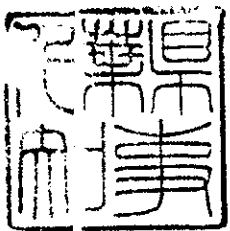
熊谷 俊



記

1 寄附行為施行の時期

令和8年4月1日



令和8年3月29日

千葉県知事 熊谷 俊人 様

所在地（住所） 野田市柳沢83番地
学校法人名 学校法人三星学園
理事長氏名 理事長 渡辺 竜太

学校法人寄附行為変更認可申請書

このたび、学校法人三星学園の寄附行為の一部を変更したいので、私立学校法第45条（※）の規定により、関係書類を添えて認可を申請します。

（添付書類）

- 1 変更する理由書
- 2 寄附行為変更条項新旧対照表（添付様式22）
- 3 新寄附行為（全文）
- 4 理事会・評議員会の決議録謄本
- ~~5 財産目録（添付様式13）~~
- ~~6 当該学校法人の設置する私立学校の位置及び校地の状況を明らかにする図面並びに校舎その他の建物の配置図及び平面図~~
- ~~7 不動産の権利の帰属を証明する書類及び不動産以外の重要な財産の権利の帰属についての銀行等の証明書類~~
- ~~8 不動産その他の主たる財産については、その評価をする十分な資格を有する者の作成した価格評価書~~
- ~~9 設立後2ヶ年の事業計画書（添付様式12）及びこれに伴う収支予算書（添付様式20）~~
- ~~10 申請年度の前年度の財産目録（添付様式13）、貸借対照表、収支決算書及び申請年度の収支予算書（添付様式20）~~
- ~~11 負債がある場合はその負債償還計画書（添付様式6）~~
- ~~12 廃止する学校、課程、学科又は収益事業にかかる財産処分に関する事項を記載した書類~~

〔留意事項〕

- 1 提出時期 既設の学校法人が寄附行為を変更しようとするとき。
- 2 提出部数 正副各1部（計2部）
ただし、副本には1、2、3の書類を添付すればよい。
- 3 関連手続 学校設置（廃止）認可申請、学校設置者変更認可申請、課程設置（廃止）認可申請
- 4 その他

- (1) 根拠条文（※）は、専修学校・各種学校の設置のみを目的とする法人の場合は、「私立学校法第64条において準用する同法第45条」とすること。
- (2) 添付書類は変更内容の区分により、次表のとおりとする。

添付書類 番号 区 分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
新たに学校等を 設置するとき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
収益事業を 行うとき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
学校等を廃止 するとき	○	○	○	○	○	—	—	—	(○) *	—	—	○
収益事業を 廃止するとき	○	○	○	○	○	—	—	—	○	—	—	○
上 記 以 外	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—

- (注) ① 上記区分中の「新たに学校等を設置するとき」及び「学校等を廃止するとき」には、次のことを含む。*は課程・学科の場合添付
ア. 高等学校の課程・学科の設置廃止
イ. 専修学校の課程の設置廃止
- ② 上記区分中の「新たに学校等を設置するとき」について、既設の幼稚園又は保育所を廃止して新たに幼保連携型認定こども園を設置する場合は、添付書類のうち、第5項から第11項の書類の提出を要しない。ただし、園舎の増改築若しくは改修又は園地の取得に伴い、新たに借入金が発生する場合は、第1項から第11項の書類を添付する。
- ③ 上記の添付書類の内、学校設置認可申請等、他の申請書により書類が重複する場合は、提出を省略することができる。
- ④ 添付書類のうち、第7項・第8項については、変更する当該「学校」又は「収益事業」に係るものとする。
- (3) 添付書類のうち、第7項「不動産の権利の帰属を証明する書類」については、自己所有の場合は登記事項証明書、借用の場合は賃貸借（又は使用貸借）契約書（写）（原則として公正証書）及び登記事項証明書
- (4) 以下の場合は、寄附行為変更届出書となるので注意すること。
ア 所轄庁の変更を伴わない事務所所在地の変更
イ 設置廃止を伴わない学校名称の変更
ウ 公告の方法の変更

止) 認可

変更する理由書

場合は、

第4条（設置する学校）の記載内容を変更する内容と理由は下記の通り。

●第8項 認可外保育施設の設置

<理由>

当法人の事業領域として定めている千葉県北西部内の船橋市において、3月上旬に認可外保育施設（企業主型保育事業）の事業譲渡の話があった。

関係各所（現運営法人、船橋市、土地建物所有者）との協議を行うとともに、今後の保育需要についても確認を行った結果、10月から認可保育所（定員35名）としての方向性が確認できた。

3月28日土曜日には、職員との雇用面談も完了し4月以降の継続意思も確認できたため、4月からは一時的に認可外保育施設として運営を継続することで、在園児並びに保護者の4月以降の保育提供継続を図るため申請するもの。

尚、現在の認可保育所としての設備基準は満たしている状況であるので、大規模改修等の大型の設備投資は行わない見通し。

12
—
—
○
○
—

るとき」

園又は
付書類
増改築
第1項

複する

は「収

は、自
書(写)

学校法人三星学園 寄附行為変更条項新旧対照表

新	旧
(設置する学校)	(設置する学校)
第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。	第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。
幼保連携型認定こども園	幼保連携型認定こども園
やなぎさわ幼稚園・保育園	やなぎさわ幼稚園・保育園
...	...
8. この法人は、教育に附帯する事業として、次に掲げる認可外保育施設を設置する。	
ナースリーホーム船橋	
...	...
附 則	附 則
3 この寄附行為は、千葉県知事の認可の日（昭和54年2月28日）から施行する。	3 この寄附行為は、千葉県知事の認可の日（昭和54年2月28日）から施行する。
...	...
令和7年 3月28日千葉県知事認可のこの寄附行為は令和7年4月1日から施行する。	令和7年 3月28日千葉県知事認可のこの寄附行為は令和7年4月1日から施行する。
令和8年 1月13日改定認可（施行時期 令和8年4月1日）	令和8年 4月 1日改定
令和8年 4月 1日改定	

学 校 法 人 三 星 学 園

寄 附 行 為

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、学校法人三星（さんせい）学園と称する。

(事業所)

第2条 この法人は、事務所を千葉県野田市柳沢83番地に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、教育基本法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育及び保育を行うことを目的とする。

(設置する学校)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

幼保連携型認定こども園 やなぎさわ幼稚園・保育園

2. この法人は、教育に附帯する事業として、企業主導型保育事業に係る保育所を設置する。

柳沢なないろ保育園

3. この法人は、教育に附帯する事業として、次に掲げる地域子ども・子育て支援事業を実施する。

(1) 一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

(2) 延長保育事業

(3) 病児保育事業（病児対応型・病後児対応型・体調不良型）

(4) 地域子育て支援拠点事業

4. この法人は、教育に附帯する事業として、次に掲げる地域型保育事業所を設置する。

柳沢くくる保育園

みつぼしルーム松戸駅東口

みつぼしルーム北松戸

5. この法人は、教育に付帯する事業として、次に掲げる児童福祉法に基づく障害児通所支援事業を行うことを目的とした事業所を設置する。

児童発達支援事業所 みつぼしぶらす

放課後等デイサービス みつぼしぶらす

保育所等訪問支援 みつぼしぶらす

6. この法人は、教育に付帯する事業として、次に掲げる認可保育所を設置する。

藤代中央保育園

藤崎みつぼし保育園

取手駅前みつぼし保育園

7. この法人は教育に付帯する事業として、次に掲げる児童福祉法に基づく乳児等通園支援事業を行う事を目的とした事業所を設置する。

みくろすぽけっと 柳沢ルーム（やなぎさわ幼稚園・保育園 併設型）

みくろすぽけっと 松戸駅東口ルーム（みつぼしルーム松戸駅東口 併設型）

みくろすぽけっと 北松戸ルーム（みつぼしルーム北松戸 併設型）

みくろすぽけっと 藤崎ルーム（藤崎みつぼし保育園 併設型）

みくろすぽけっと 取手駅前ルーム（取手駅前みつぼし保育園 併設型）

8. この法人は、教育に付帯する事業として、次に掲げる認可外保育施設を設置する。

ナーサリーホーム船橋

第3章 機関の設置

（役員及び評議員の設置）

第5条 この法人に、次の役員を置く。

一 理事 6名

二 監事 2名

2 この法人に、評議員7名を置く。

（理事選任機関）

第6条 この法人の理事選任機関の構成員は、理事1名、評議員1名、学外有識者1名とする。

2 理事選任機関の構成員は、理事選任機関選考会議の決議によって選任する。

3 理事選任機関の構成員の任期は、4年とする。

4 理事選任機関は、当該理事選任機関の決議によって定められた者が招集する。

5 理事選任機関が理事を選任するときは、理事長に対し、評議員会の招集を求め、あらかじめ、評議員会の意見を聴かなければならない。

6 理事選任機関は、前項の評議員会の意見を十分に参酌し、理事を選任しなければならない。

7 理事選任機関の決議は、理事選任機関の構成員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

8 監事又は評議員会は、理事選任機関に対し必要な報告又は求めを行おうとするときは、理事選任機関招集権者（第4項に規定する者をいう。以下この項及び第29条第1項第5号において同じ。）に対し、理事選任機関の招集を請求することができる。この場合において、理事選任機関招集権者は、理事選任機関を招集しなければならない。

9 理事選任機関の議事録その他理事選任機関の運営に関し必要な事項は、理事選任機関運営規程で定める。

第4章 役員及び理事会

第一節 理事の選任及び解任等

(理事の選任)

第7条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 学校長のうちから理事選任機関において選任した者 1人
 - (2) 前号に規定するもののほか、理事選任機関において選任した者 5人
- 2 前項第1号に定める理事は、その職を退いたときは、理事の職を失うものとする。
- 3 理事選任機関は、理事の総数が6名を下回ることとなるときに備えて、補欠の理事を選任することができる。

(理事の資格及び構成)

第8条 理事の選任に当たっては、私立学校法第三十一条に規定する資格及び構成に関する要件を遵守しなければならない。

- 2 前項の規定によるほかこの法人の理事は、他の二人以上の理事と親族その他特殊の関係がある者(租税特別措置法施行令第二十五条の十七第六項第一号に規定するものをいう。以下同じ。)であってはならない。

(理事の任期)

第9条 理事の任期は、選任後四年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した理事の補欠として選任された理事の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

- 2 理事は、再任されることができる。

(理事の解任及び退任)

第10条 理事が次の各号のいずれかに該当するときは、当該理事を選任した理事選任機関の決議によって解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- 二 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき
- 三 理事としてふさわしくない非行があったとき

2 理事が前項各号のいずれかに該当するときは、評議員会は、当該理事を選任した理事選任機関に対し、当該理事の解任を求めることができる。

3 前項の場合において、理事の職務の執行に関し不正の行為又は法令若しくはこの寄附行為に違反する重大な事実があったにもかかわらず、当該理事の解任を求める旨の議案が評議員会において

営規程

否決されたとき、又は当該理事の解任を求める旨の評議員会の決議があった日から二週間以内に理事選任機関による解任がされなかったときは、評議員は、当該議案が否決された日又は当該決議があった日から二週間を経過した日から三十日以内に、訴えをもって当該理事の解任を請求することができる。

4 理事は次の事由によって退任する。

- 一 任期の満了
- 二 辞任
- 三 死亡

(理事に欠員を生じた場合の措置)

第11条 理事は、第5条に定める定数を下回ることとなったときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、後任の理事が選任されるまでは、なお理事としての権利義務を有する。

2 理事のうち、その定数の五分之一を超えるものが欠けたときは、一月以内に補充しなければならない。

任する

第二節 理事会及び理事の職務等

(理事会の構成)

第12条 理事会は、全ての理事で組織する。

要件を

がある

)であ

(理事会の権限)

第13条 理事会は、この法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

(理事の職務)

第14条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの寄附行為で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事のうち一名を理事長とし、理事会の決議によって選定する。理事長を解職するときも、同様とする。

3 理事(理事長を除く。)のうち、1名以内を業務執行理事とすることができる。業務執行理事は、理事会の決議によって選定する。業務執行理事を解職するときも、同様とする。

4 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

5 業務執行理事は、理事会の定めるところにより、理事長を補佐してこの法人の業務を掌理する。

評議員

事の任

の決議

(代表権の制限)

第15条 理事長及び代表業務執行理事以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

任機関

為に違

において

(理事の報告義務)

第16条 理事長、業務執行理事は、毎会計年度に四月を超える間隔で二回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

第三節 理事会の運営

(招集)

第17条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

3 理事長以外の理事は、理事長に対し、会議の目的である事項を示して、理事会の招集を請求することができる。

4 理事長が、前項の請求のあった日から五日以内に、その請求の日から二週間以内の日を理事会の日とする理事会の招集の通知を発しない場合には、招集を請求した理事は理事会を招集することができる。

5 理事会を招集するには、各理事及び各監事に対して、会議の日時及び場所並びに会議の目的である事項を書面又は電磁的方法により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の一週間前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。

7 前2項の規定にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続を経ることなく開催することができる。

(運営)

第18条 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

2 前条第2項及び第4項並びに第29条第2項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

(決議)

第19条 理事会の決議は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、理事の総数（現在数）の三分の二以上に当たる多数をもって行わなければならない。

一 この寄附行為の変更

二 私立学校法第百九条第一項第一号に定める事由による解散

三 この法人の合併

四 予算及び事業計画の作成又は変更

五 第六十二条第一項各号に定める書類の承認

六 基本財産の処分

七 借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）その他予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄

務の執

ハ 残余財産の帰属者の決定

- 3 前二項の決議について特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることができない。
- 4 理事は、書面又は電磁的方法により理事会の議決に加わることができる。

（業務の決定の委任）

請求す

第20条 法令及びこの寄附行為の規定により理事会において決定しなければならない事項以外の決定であって、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

理事会
ること

（議事録）

第21条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成しなければならない。

目的で

2 議事録には、議長、出席した理事のうちから互選された理事二人以上及び出席した監事が署名（電磁的記録により作成される議事録にあつては、電子署名。第四十七条第二項において同じ。）又は記名押印し、理事会の日から十年間、これを事務所に備えて置かなければならない。

合はこ

の手續

第5章 監事

第1節 選任及び解任等

（監事の選任）

おける

第22条 監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を選任するものとする。

議につ

3 評議員会は、監事の総数が2名を下回ることとなるときに備えて、補欠の監事を選任することができる。

多数を

（監事の資格）

第23条 監事の選任に当たっては、私立学校法第三十一条第三項及び第六項並びに第四十六条に規定する資格に関する要件を遵守しなければならない。

2 前項の規定によるほか、この法人の監事には、この法人の理事（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）及び評議員（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、この法人の監事は、他の監事と親族その他特殊の関係がある者であつてはならない。

新たな

（監事の任期）

第24条 監事の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議

員会の終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した監事の補欠として選任された監事の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

2 監事は、再任されることができる。

(監事の解任及び退任)

第25条 監事が次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- 二 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき
- 三 監事としてふさわしくない非行があったとき

2 監事の職務の執行に関し不正の行為又は法令若しくはこの寄附行為に違反する重大な事実があったにもかかわらず、当該監事を解任する旨の議案が評議員会において否決されたときは、評議員は、当該評議員会の日から三十日以内に、訴えをもって当該監事の解任を請求することができる。

3 監事は次の事由によって退任する。

- 一 任期の満了
- 二 辞任
- 三 死亡

(監事の選任若しくは解任又は辞任に関する手続)

第26条 理事は、監事の選任に関する議案を評議員会に提出するには、監事の過半数の同意を得なければならない。

2 監事は、理事に対し、監事の選任を評議員会の会議の目的とすること又は監事の選任に関する議案を評議員会に提出することを請求することができる。

3 監事は、評議員会において、監事の選任若しくは解任又は辞任について意見を述べることができる。

4 監事を辞任した者は、辞任後最初に招集される評議員会に出席して、辞任した旨及びその理由を述べることができる。

5 理事は、前項の者に対し、同項の評議員会を招集する旨並びにその日時及び場所を通知しなければならない。

(監事に欠員を生じた場合の措置)

第27条 監事は、第5条に定める定数を下回ることとなったときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、後任の監事が選任されるまでは、なお、監事としての権利義務を有する。

2 監事のうち、その定数の二分の一を超えるものが欠けたときは、一月以内に補充しなければならない。

第二節 職務等

(監事の職務)

第28条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- 一 この法人の業務及び財産の状況並びに理事の職務の執行の状況を監査すること。
 - 二 この法人の業務及び財産の状況並びに理事の職務の執行の状況について、毎会計年度、監査報告を作成し、当該会計年度終了後三月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
 - 三 理事会及び評議員会に出席して意見を述べること。
 - 四 この法人の業務若しくは財産又は理事の職務の執行の状況に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したとき又は不正の行為がなされ、若しくは法令若しくは寄附行為の重大な違反が生ずるおそれがあると認めるときは、これを理事会及び評議員会並びに千葉県知事（当該報告が理事の業務の執行に関するものであるときは、理事選任機関を含む。）に報告すること。
 - 五 前号の報告をするために必要があるときは、理事長又は理事選任機関招集権者に対して理事会及び評議員会又は理事選任機関の招集を請求すること。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、法令又はこの寄附行為により監事が行うこととされた職務
- 2 前項第五号の請求があった日から五日以内に、その請求があった日から二週間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は評議員会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を招集することができる。理事選任機関の招集を請求した場合も、同様とする。

(調査権限等)

第29条 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、又はこの法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

2 監事は、理事が評議員会に提出しようとする議案、書類その他私立学校法施行規則で定めるものを調査しなければならない。この場合において、法令若しくはこの寄附行為に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を評議員会に報告しなければならない。

(理事の行為の差止め)

第30条 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくはこの寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該理事の行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

第6章 評議員会及び評議員

第一節 評議員の選任及び解任等

(評議員の選任)

第31条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 この法人の職員のうちから評議員会にて選任した者 1名もしくは2名
- 二 この法人の設置する学校を卒業した者で年齢二十五年以上のもののうちから評議員会にて選任した者 1名もしくは2名

三 理事長より推薦を受け理事会にて選任された者 3名

四 学識経験者のうちから評議員会にて選任した者 0～2名の間で第6条に定める評議員数合計を満たす数

2 前項第一号に定める評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。

3 評議員会は、評議員の総数が7名を下回ることとなるときに備えて、補欠の評議員を選任することができる。

4 評議員の選任は、評議員の年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないよう配慮して行うものとする。

5 第一項第三号に定める評議員の数は、評議員の総数の二分の一を超えないものとする。

(評議員の資格)

第32条 評議員の選任に当たっては、私立学校法第三十一条第三項及び第六項、第四十六条第二項及び第三項並びに第六十二条に規定する資格及び構成に関する要件を遵守しなければならない。

2 前項の規定によるほか、この法人の評議員は、他の二人以上の評議員と親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

(評議員の任期)

第33条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

2 評議員は、再任されることができる。

(評議員の解任及び退任)

第34条 評議員が次の各号のいずれかに該当するときは、当該評議員を選任したものの決議によって解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- 二 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき
- 三 評議員としてふさわしくない非行があったとき

2 評議員は次の事由によって退任する。

- 一 任期の満了
- 二 辞任
- 三 死亡

3 評議員は、第5条に定める定数を下回ることとなったときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、後任の評議員が選任されるまでは、なお、評議員としての権利義務を有する。

第二節 評議員会及び評議員の職務等

(評議員会の構成)

第35条 評議員会は、全ての評議員で組織する。

(評議員会の職務等)

第36条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

2 理事会は、次の各号に掲げる事項についての決定をするときは、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

一 重要な資産の処分又は譲受け

二 多額の借財

三 予算及び事業計画の作成又は変更

四 役員及び評議員に対する報酬等（報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当をいう。以下同じ。）の支給の基準の策定又は変更

五 私立学校法第二十三条第一項第一号から第三号まで及び第五号から第十五号までに定める事項を除く寄附行為の変更

六 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄

七 寄附金品の募集に関する事項

八 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

3 評議員会は、次の各号に掲げる事項について決議する。

一 私立学校法第二十三条第一項第一号から第三号まで及び第五号から第十五号までに定める寄附行為の変更

二 私立学校法第百九条第一項第一号に定める事由による解散

三 合併

(理事の行為の差止めの求め)

第37条 評議員会は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくはこの寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に回復することができない損害が生ずるおそれがあるときは、監事に対し、第31条の請求を行うことを求めることができる。

2 前項の場合において、当該行為によってこの法人に回復することができない損害が生ずるおそれがあるにもかかわらず、評議員会において前項の請求を行うことを監事に求める旨の決議が否決されたとき、又は当該請求を行うことを監事に求める旨の評議員会の決議があった後遅滞なく当該請求その他の手続が行われないときは、評議員は、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(責任追及の訴えの求め)

第38条 評議員会は、役員又は清算人が任務を怠ったことによってこの法人に損害が生じた場合には、書面又は電磁的方法により、理事長(理事の責任を追及する場合には監事)に対し、役員又は清算人の責任を追及する訴えの提起を求めることができる。

第三節 評議員会の運営

(開催)

第39条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後三月以内に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第40条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員の総数の三分の一以上の評議員は、共同して、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

3 評議員の総数の三分の一以上の評議員は、共同して、理事長に対し、一定の事項を評議員会の会議の目的とすることを請求することができる。この場合において、その請求は、評議員会の日の二十日前までにしなければならない。

4 評議員会を招集する場合には、理事会において、次に掲げる事項を定め、評議員に対し、書面又は電磁的方法(評議員の承諾を得た場合に限る。)により通知しなければならない。

一 会議の日時及び場所

二 会議の目的である事項があるときは、当該事項

三 会議の目的である事項に係る議案(当該目的である事項が議案となるものを除く。)について、議案が確定しているときはその概要、議案が確定していないときはその旨

四 私立学校法施行規則で定める事項

5 前項の通知は、会議の一週間前までに発しなければならない。

(評議員による招集)

第41条 前条第2項の規定による請求があった日から二十日以内の日を評議員会の日とする評議員会の招集の通知が発せられない場合には、同項の規定による請求をした評議員は、共同して、千葉県知事の許可を得て、評議員会を招集することができる。

2 前項の評議員は、その全員の協議により、前条第四項各号に掲げる事項を定め、他の評議員に対し、書面又は電磁的方法(他の評議員の承諾を得た場合に限る。)により通知しなければならない。

3 前項の通知は、会議の一週間前までに発しなければならない。

(監事による招集)

第42条 第29条第2項の規定により監事が評議員会を招集する場合には、監事は第41条第4項第1号、第2号及び第4号に掲げる事項を定め、評議員に対し、書面又は電磁的方法(評議員の

承諾を得た場合に限る。)により通知しなければならない。

2 前項の通知は、会議の一週間前までに発しなければならない。

(招集手続の省略)

第43条 前三条の規定にかかわらず、評議員会は、評議員の全員の合意があるときは、招集の手続を経ることなく開催することができる。

(運営)

第44条 評議員会に議長を置き、評議員の互選によって定める。

(決議)

第45条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、議決に加わることができる評議員の数の三分の二以上に当たる多数をもって行わなければならない。

一 監事の解任

二 私立学校法第九十二条第一項に規定する決議

3 前2項の規定にかかわらず、役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任を免除する決議は、議決に加わることができる評議員の全員一致をもって行わなければならない。

4 評議員は、書面又は電磁的方法により評議員会の議決に加わることができる。

5一 議長は評議員として議決に加わることができない。

(議事録)

第46条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、議長、出席した評議員のうちから互選された評議員二人以上及び出席した監事が署名又は記名押印し、評議員会の日から十年間、これを事務所に備えて置かななければならない。

(役員の出席等)

第47条 理事長、代表業務執行理事、業務執行理事及び監事は、評議員会に出席しなければならない。

2 理事長、代表業務執行理事、業務執行理事及び監事は、評議員会において、評議員から特定の事項について説明を求められた場合には、当該事項について必要な説明をしなければならない。

第7章 理事会と評議員会の協議

(理事会及び評議員会の協議)

第48条 法令又はこの寄附行為の定めるところにより理事会の決議及び評議員会の決議を必要とする事項について理事会と評議員会の決議が異なる場合、理事長は、更に審議を尽くすために、当該事項を会議の目的である事項として、再度評議員会を招集することができる。

2 前項の理事会の決議に関わった理事は、前項の評議員会に出席し、前項の事項に関し改めて必要な説明を行うものとする。

3 評議員会は、前項の理事の説明を十分に尊重して、再度決議を行わなければならない。

第8章 予算及び事業計画等

(会計年度)

第49条 この法人の会計年度は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わるものとする。

(予算及び事業計画)

第50条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会で決議しなければならない。これに変更を加えようとするときも、同様とする。

(役員及び評議員の報酬)

第51条 役員及び評議員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。ただし、役員の地位にあることのみによっては、支給しない。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

(責任の免除)

第52条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法第九十二条の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

2 理事は、前項の規定に基づく責任の免除（理事の責任の免除に限る。）に関する議案を理事会に提出するには、各監事の同意を得なければならない。

3 第一項の決議を行ったときは、理事長は、遅滞なく、私立学校法第九十二条第二項各号に掲げる事項及び責任を免除することに異議がある場合には3月以内に当該異議を述べるべき旨を評議員に通知しなければならない。

4 評議員の総数の十分の一以上の評議員が前項の期間内に同項の異議を述べたときは、第一項の規定に基づく責任の免除をしてはならない。

5 第一項の決議があった場合において、当該決議後に同項の役員に対し退職慰労金その他の私立学校法施行規則で定める財産上の利益を与えるときは、評議員会の決議による承認を受けなければならない。

(責任限定契約)

第53条 理事(理事長、代表業務執行理事、業務執行理事及びこの法人の職員である理事を除く。以下この条において「非業務執行理事」という。)又は監事が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事又は監事が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金5万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法第九十二条の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事又は監事と締結することができる。

第9章 資産及び会計

(資産)

第54条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第55条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産とする。

2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。

3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。

4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産、運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第56条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会の決議によって、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第57条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第58条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第59条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第60条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会で決議しなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

（事業報告及び決算）

第61条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- 一 事業報告
- 二 事業報告の附属明細書
- 三 計算書類
- 四 計算書類の附属明細書
- 五 財産目録

2 理事長は、前項の承認を受けた書類のうち、第一号、第三号及び第五号の書類の内容を定時評議員会に報告し、その意見を聴かなければならない。

（財産目録等の備置き及び閲覧等）

第62条 この法人は、毎会計年度終了後3月以内に役員等名簿（役員及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。以下第3項及び第69条第2号において同じ。）を作成しなければならない。

2 この法人は、前条第1項各号及び前項の書類、監査報告、役員及び評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類並びにこの寄附行為を事務所に備えて置き、請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供し又はこれらの書類の謄本若しくは抄本を交付しなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について評議員以外の者から同項の請求があった場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除外して、同項の閲覧をさせ又は交付をすることができる。

（資産総額の変更登記）

第63条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後三月以内に登記しなければならない。

第10章 寄附行為の変更

（寄附行為の変更）

第64条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会の決議及び評議員会の決議（私立学校法第二十三条第一項第一号から第三号まで及び第五号から第十五号に定める事項を除く寄附行為の変更にあつては、評議員会への諮問。次項において同じ。）を得て、千葉県知事の認可を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、私立学校法施行規則に定める届出事項については、理事会の決議及び評議員会の決議を得て、千葉県知事に届け出なければならない。

第11章 解散及び合併

(解散)

第65条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

- 一 理事会の決議及び評議員会の決議による決定
- 二 この法人の目的たる事業の成功の不能
- 三 合併
- 四 破産手続開始の決定
- 五 千葉県知事の解散命令

2 前項第一号又は第二号に掲げる事由による解散は、千葉県知事の認可を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

第66条 この法人が解散した場合（合併又は破産手続開始の決定によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会の決議により選定した学校法人、幼保連携型認定こども園を設置する社会福祉法人、教育の事業を行う公益社団法人若しくは公益財団法人又は国若しくは地方自治体に帰属する。

(合併)

第67条 この法人が合併しようとするときは、理事会の決議及び評議員会の決議を得て、千葉県知事の認可を受けなければならない。

第12章 補則

(情報の公表)

第68条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なく、インターネットの利用又はその他の方法により当該各号に定める事項を公表するよう努めなければならない。

一 寄附行為若しくは寄附行為変更の認可を受けたとき、又は寄附行為変更の届出をしたとき
寄附行為の内容

二 計算書類及び事業報告書並びにこれらの附属明細書、監査報告、財産目録、役員等名簿並びに役員及び評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類を作成したとき
これらの書類の内容

(公告の方法)

第69条 この法人の公告は、この法人のホームページに掲載又はその他の方法により行う。

(施行細則)

第70条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

1 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事（理事長）	渡辺 幸吉
理事	渡辺 勇
理事	糸賀 重衛
理事	藤井 嘉雄
理事	水口 登郎
理事	浦辺 與平
監事	寺田 典雄
監事	石原 正吉

2 第24条第1項第2号中「設置する学校を卒業した者」とあるのは、学校の卒業生が年齢25歳以上になるまでの間、「園児の父兄」と読み替える。

3 この寄附行為は、千葉県知事の認可の日（昭和54年2月28日）から施行する。

令和1年 9月 1日改定

令和2年 4月 1日改定

令和3年 4月 1日改定

令和4年 4月 1日改定

令和5年 6月 1日改定

令和6年 4月 1日改定

令和7年 3月28日千葉県知事認可のこの寄附行為は令和7年4月1日から施行する。

令和8年 1月13日改定認可（施行時期 令和8年4月1日）

令和8年 4月 1日改定

1. 招集年
2. 開催日
3. 理事・
4. 出席理
5. 出席監
6. その他
7. 議長の
8. 議題

8. 議事の
(可決)

開会時
立した旨
その他議
議事録に
った。また

(第1号議)

議長よ
程度発生
にも安全
あり、上
ついて、

(第2号議)

議長
た補正
張解
のか?

